

マレーシア国民大学(UKM)留学案内

—研究機関への留学と図書館情報を中心に—

上田達*

1. 研究機関への留学方法

UKM には、さまざまな学部の他に、研究所 (institut) と呼ばれる各種研究プロジェクトに特化された機関がいくつか設置されており、それぞれ調査・研究活動を行っている。人文・社会科学系の学問では、マレー世界・文明研究所 (Institut Alam dan Tamadun Melayu: ATMA, <http://www.atma.ukm.my/>) やマレーシア・国際調査研究 (Institut Kajian Malaysia dan Antarabangsa: IKMAS, <http://www.ikmas.ukm.my/>) などが知られている。

ATMA には様々な分野の研究者(人類学、言語学、文学、考古学、歴史学など)が所属しており、「マレー世界」を多彩なアプローチで研究の射程に捉えて、それぞれ調査・研究に取り組んでいる。近年ではマレー世界と外部世界とのかわり合いについての研究が盛んで、国外から研究者を招聘して各種セミナーを頻繁に開催している。

IKMAS は、ATMA が人文科学系の研究者を擁しているのに比べれば、社会科学系諸学問(経済学、政治学、国際関係学など)を専門分野とするスタッフが多く集まり、活発な研究活動を行っている。IKMAS もまた、研究所の研究成果の発信に積極的で、国外から研究者を招いて国際セミナーやコロキウムを多く開催している。

これらの研究所では講義形式の授業は開講さ

れていないが、学部を卒業した大学院生に対する教育・指導を行っており、日本人が学生として所属することも可能である。コースは、マスター (MA) のコースと ドクター (Ph.D.) のコースがある。学位の取得を目的としなくても、いずれのコースにも non-graduating student として所属することができる。この身分は、学位を必要としない、つまり論文指導や論文提出にまつわる諸手続きがないこと以外は、学位取得を目指す院生と同じ待遇を受けることができる。授業料は同額 (1 学期約 1900 リンギ) で、学内の福利厚生サービスも同じものを受けることができる。

登録方法は学部にも所属するのと同じで、原則として年に 2 回、PPS (Pusat Pengajian Siswazah) という部署で授業料の納付等の登録手続きを行う。登録のための書類は PPS で販売されている。その中で面倒なのは、referee form という書類である。これは、入学前の研究活動についての所見で、日本での指導教官の先生 2 人に 1 通ずつ書いてもらう必要がある。このほかに、入学後に行う研究について計画書の提出が求められる。

2. 図書館情報

UKM の各図書館は、原則として UKM に在学している学生は全て利用可能である。ただし、

学生でなくとも入館と閲覧だけであれば、制限もつくだらうが、多くの場合は可能なようだ。

UKM の総合図書館は、PUSANIKA という福利厚生棟の隣にある。5階建の建物のうち3階から5階までが図書館で、4階がエントランスフロアになっている。総合図書館の書籍は、一般蔵書(Koleksi Am)、東南アジアコレクション(Koleksi Asia Tenggara)、イスラムコレクション(Koleksi Islam)などいくつかのカテゴリーに分かれており、東南アジアコレクションが3階にあるほかは、すべて5階に所蔵されている。

書籍の多くは開架で所蔵されており閲覧可能だが、各コレクションで本の扱いに違いがある。東南アジアコレクションを例にとると、閲覧および貸出は可能だが、館外への貸出は禁じられており、館内の指定区域での閲覧に際しても、書架から持ち出せるのは1度に2冊までとなっている。東南アジア、特にマレーシア地域の研究書はこのKoleksi Asia Tenggaraに多く置かれており、こうした規則を若干不便に感じるかもしれない。

雑誌や新聞は3階に所蔵されている。学術誌のほかに *DEWAN BUDAYA* や *DEWAN BAHASA* などの DBP(Dewan Bahasa dan Pustaka) による各種雑誌、さらには一般誌も揃っている。

マレーシア関連の文献に関しては、ATMA の付設図書館 (Perpustakaan Alam dan Tamadun Melayu) も豊富だ。マレーシア地域を対象とした言語学や人類学の書籍・雑誌は、

総合図書館よりも蔵書が充実しているように思うことさえある。ATMA の事務所の向かいに書籍室があり、そのすぐ上のフロアに雑誌や刊行された博士論文を収める部屋がある。ただしこの図書館は、院生や研究者の研究・調査を主な用途としており、学部生の利用を制限している。

このほかに、大学の中心から若干離れたところにある法学部(Fakulti Undang-undang)にも図書館(Perpustakaan Undang-Undang)が付設されており、マレーシアの法制研究書が多く集められている。ただし非常に行き難い場所にあり、交通手段を確保する必要がある。学期期間中なら学内バスを利用することも可能である。

学内の図書館の蔵書は全て端末にデータが入力されており、各図書館に設置された検索端末で横断的に検索を行うことが出来る。図書館サービスに関するさらなる詳細は、<http://pkukmweb.ukm.my/~library/>を参照していただきたい。

* 大阪大学大学院人間科学研究科